

芸術文化学部美術学科

教育の理念・目的

美術学科の教育理念は、美術における専門家として持続的に創作活動に携わり、地域や社会の文化・芸術に寄与する人材を育成することにあります。

個々の学生の美に寄せる豊かな感性を尊重しながら、実技教育を通して専門的な知識・技術を獲得させること、また、学生が相互に切磋琢磨する機会を通して、芸術文化に関する幅広い視野を身につけさせることを目的とします。その上で、作家やデザイナーとして、あるいは美術教員や学芸員等として、持続的に美術に携わることのできる人材の育成を目指しています。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

美術学科では、美術における専門家として持続的な創作活動に携わり、地域や社会の文化・芸術に寄与する人材の輩出を目標としています。このことを踏まえ、所定卒業単位の修得と卒業制作に加え、以下の学修成果を達成した学生に対して「学士（美術）」を授与します。

（知識・技能）

DP1; 美術に関連する基本的な素養を身につけ、専門分野の基礎的な知識や技術を修得し、感性を養いながら、それらを自己表現に積極的に活用することができる。

（思考力・判断力・表現力）

DP2; 広い視野で物事を捉え、課題を発見し、その解決方法を模索した上で、表現の可能性を探究することができる。

（主体性）

DP3; 美術を学んだことにより身につけた表現力や創造性を、継続的な創作活動を通して社会に発信することができる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

美術学科では、まず自己の資質・方向性を探るべく、幅広く各分野の基礎を体験します。次に各コースにおいては、基礎から応用への展開を軸として課題を組みます。そして最終的には、美術における専門家として主体的に制作できるようになることを方針として教育課程を編成します。

1. 基礎的な造形力を育成し、学生が自身に合った表現の方向性を探ることができるように、日本画・油画・デザインの3つのコース課題すべてに取り組む必修の基礎造形科目を1年次に配置します。[DP1]
2. 1年次に学んだ基礎的な造形力を踏まえて、それぞれの分野の知識や技術の修得を図るために、2年次からは、日本画・油画・デザイン3つのコース別に専門実習科目を配置します。[DP1] [DP2]

3. 各コースの専門実習では、表現の可能性を探究するための、与えられた課題に即した制作と自らテーマを設定する自由制作を課します。また、社会に向けて自身の創作を発信する力を身につけるために、プレゼンテーションやディスカッションの機会を多く設定します。[DP2] [DP3]
 4. 4年次には、専門的な知識と技術の集大成としての卒業制作を課し、また、社会に向けて自身の創作を発信する卒業制作展の場を設けます。[DP2] [DP3]
 5. 本学の学生として身につけてほしい教養を学ぶための教養教育科目や関連科目、文化や芸術に関する基本的な素養を身につけるための学部共通科目、美や芸術の本質、美術の考え方や歴史、関連分野の技術を修得する専門基幹科目、を配置します。[DP1] [DP2]
- [] 内は関連する DP を示します。